

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 9. No.4 2007年2月15日号

編集: editor@cnar.jp 広告: pr@cnar.jp 読者登録: <http://cnar.jp>

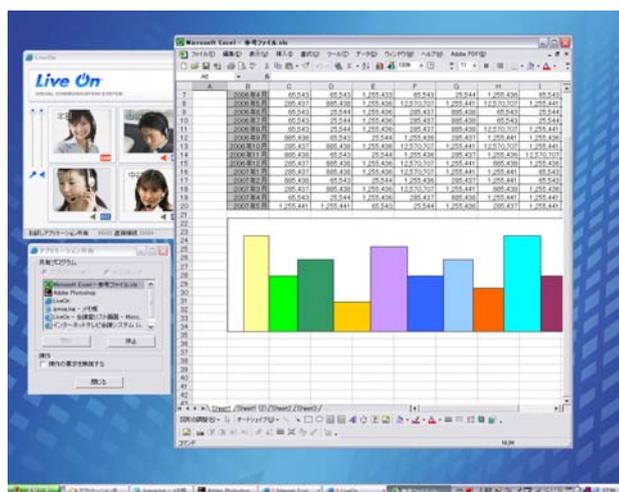
Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

ニュース項目

ジャパンメディアシステム、インターネットテレビ会議システム Ver4.0i イントラパック版発売

ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、同社が開発するインターネットテレビ会議システム「LiveOn(ライブオン)」の Ver4.0i イントラパック版を2月5日から発売した。

LiveOnは、Microsoft Internet Explorer のブラウザ上で動作し、指定された LiveOn のウェブサイトアドレスにアクセスするだけで、使用することができる PC 向けのシステム。



LiveOn Ver4.0i アプリケーション共有

今回のバージョンによって、以下の新機能が追加された。

(1)アプリケーション共有機能の追加。会議参加者のアプリケーションソフトを共有し、他の参加者が操作することができる機能。デスクトップ共有も行える。(2)映像解像度 640x480 に対応。カメラ映像の解像度を 640x480 ピクセルにすることができる設定を追加。(3)強制退室機能。会議の議長が参加者を退室させることができる機能。(4)資料共有において保存機能の追加。資料共有の描画画面を画像形式のファイルに保存できる機能を追加。(5)資料共有でのファイルアップロード時の URL の非表示。ファイルをアップロードした時

に、URL をセキュリティのために表示しないように変更。

ジャパンメディアシステムでは、ユーザーのネットワーク内に LiveOn サーバを構築する「イントラパック版」と、サービスで利用できる「ASP 版」を用意しているが、今回の LiveOn Ver4.0i は、イントラパック版のみで提供している。(LiveOn 関連:CNAレポートジャパン Vol.8 No.10 2006年4月10日、Vol.8 No.26 2006年10月10日など)

モーラネット、同社のサーバ導入型 Web 会議サービス「MORA Video Conference Ver4.0i」を発表



MORA Video Conference Ver4.0i - 参加メンバー mora002 (右) が、議長である mora001 (左) の PC のデスクトップ画面を見ている状況

株式会社モーラネット(東京都港区)は、他参加者のパソコン上のソフトウェアを遠隔操作できる新しい機能を搭載した、サーバ導入型 Web 会議サービス「MORA Video Conference Ver4.0i(モーラ ビデオ カンファレンス バージョン 4.0i)」を発表した。提供開始は、2月5日から。

モーラネットの MORA Video Conference サービスは、ジャパンメディアシステムの LiveOn をベースに提供されている ASP サービス。ASP サービスであっても、企業側のファ

イアウォールの設定を変更することなく導入でき、最大 20 人の同時参加の Web 会議が可能。月額 2,100 円からのサービスも提供している。セミナーモードでは、最大 1000 人まで同時に参加が出来る。また、サーバ導入型 (イントラパック) も提供している。

今回のバージョンアップでは、LiveOn のバージョンアップに準じた内容となっているが、アプリケーション共有機能の追加、映像解像度 640x480 に対応、強制退室機能の追加、資料共有における保存機能の追加、資料共有でのファイルアップロード時の URL の非表示などが含まれている。

(MORA Video Conference 関連:CNAレポートジャパン Vol.7 No.4 2006年2月28日、Vol.7 No.19 2006年10月31日、Vol.8 No.10 2006年4月10日、Vol.8 No.11 2006年4月20日、Vol.8 No.26 2006年10月10日など)

日本科学未来館主催の科学実験イベントにて タンバーク日本支社がビデオ会議システムで 支援



日本会場の様子 (写真提供: 日本科学未来館) TANDBERG ビデオ会議システムによる南極、日本、オーストラリア、タイの4拠点を結んだ科学実験イベント中継

日本科学未来館主催の科学実験イベント「さあ、南極へ！～大気を通して地球の未来を見る～」が 2007 年 1 月 10 日に開催された。イベントでは、ビデオ会議システムによる南極、日本、オーストラリア、タイの4拠点を結んだ中継を行い、その中で、タンバーク日本支社は、関連機器の貸し出し、接続試験、技術支援、イベント向けのビデオ会議ネットワー

クの構築などで支援を提供した。

科学実験イベントは、東京の日本科学未来館 (「TANDBERG 6000 MXP」)、南極大陸 S17 地点 (昭和基地東方約 20km 内陸部、「TANDBERG Tactical MXP」)、タイ科学技術省 (「TANDBERG 880」)、オーストラリア国立科学技術センター (「TANDBERG 7000 MXP」) を、国立極地研究所に設置された「TANDBERG MPS 200」(多地点接続装置) と、「TANDBERG Border Controller」を使い、4カ所同時に接続した。

今回のイベントでは、地球温暖化などにも影響を及ぼすといわれる大気中のエアロゾル (浮遊粒子) を紹介するために、実験では、各会場で空気中のエアロゾルの量を簡易計測し、その数値と加湿器から出る湯気の発生量の比較から、南極では他の3地点よりもエアロゾルの量が大幅に少ないことが、観客と共に比較確認できた。南極では、国立極地研究所の招請で南極滞在中の日本科学未来館の毛利衛館長が自ら実験を担当し、解説をした。

TANDBERG ビデオ会議システムを使いながら、実験では、4地点の加湿器の湯気の様子や計測器の数値が4分割の画面に映し出され、4地点間の声が直接対しているような感覚で実験イベントが行なわれた。

沖縄県北谷役場、ゼッタテクノロジーの Skype 運用管理ソフトを導入、34 拠点を IP 無料内線 化、IP 電話サービスに比べ導入費用も 1/3 に削減

ゼッタテクノロジー株式会社 (東京都千代田区) によると、沖縄県北谷町役場が、ゼッタテクノロジーの企業向け Skype 運用管理ソフト「オフィス for Skype」を導入したと発表。

従来、Skype はコンシューマーに活用されることがほとんどで、自治体や企業などでの導入は、セキュリティや管理上の問題があるため不向きであると一般的に言われてきた。

オフィス for Skype は、それを可能とするソフトウェア。

企業ネットワーク内の Skype ソフトウェアの管理や制御が行える。主な機能としては、外部ネットワークへの接続遮断、ファイル転送機能無効化、ログ管理(通話/チャット)、バージョン管理など Skype を安全に社内等のネットワークで使えるようにするための機能が入っている。

北谷町役場では、既に構築済みの光ファイバー網に Skype とオフィス for Skype を導入することで、北谷町内 52 拠点のうち、庁舎を含む児童館、保育所、小中学校、シルバー人材センター、図書館など現在 34 拠点を Skype で無料内線化した。導入費用についても、通信事業者の IP 電話サービスが 270 万円のコストがかかるところを、約 77 万円と 1/3 で導入できた。

今後、北谷町役場では、全ての施設・職員に対して導入の拡大を計画しており、ファイルの交換、チャットの利用による業務の効率化、ペーパーレス化、Skype ビデオ機能の利用で簡単なビデオ会議システムなどを検討している。

(オフィス for Skype 関連:CNAレポートジャパン Vol.8 No.32 2006 年 12 月 10 日)

【海外 news】ラドビジョン社、VC Insight 誌の 2006 年最優秀統合コミュニケーションプロバイダー賞を受賞、2006 年は、統合ビジュアルコミュニケーションソリューションのラインナップを完成

イスラエルのラドビジョン社の発表によると、同社が英のテレビ会議専門誌 Videoconferencing Insight 誌の“2006 年最優秀統合コミュニケーションプロバイダー賞”を受賞した。ラドビジョン社の 2006 年 1 年間での事業の取り組みが評価された。

2006 年を振り返ると、SCOPIA バージョン 5 プラットフォーム、SCOPIA 製品とネットワークのスケジューリング、管理、制御を行う iVIEW ファミリー、そして Click To Meet デスクトップ会議システムの統合ビジュアルコミュニケーションソリューションのラインナップを完成させた年だった。

SCOPIA バージョン 5 のリリース、PC-to-Mobile 3G ソリュ

ーションである SCOPIA 3G ビデオゲートウェイの発売、Click To Meet のマイクロソフト社の Microsoft Live Communication Server や、IBM 社の IBM Lotus SameTime 7.5 との連携を実現、H.323 や SIP に加え、IMS 用ツールキットの提供開始、ProLab IMS テストツールの提供開始、マイクロソフト社へ SIP ツールキットのライセンス提供契約、IPTV への取り組みなどがあり、2006 年の業績は、前年と比較して好調な結果だった。

【海外 news】米 8x8 社、CES にてコンシューマー向けのテレビ電話を発表

8x8, Inc. hopes that its new, sleek-looking Packet8 Tango Video Terminal Adapter, next generation Videophone Solution will escalate consumer interest in videoconferencing at CES and beyond; it is not the first company to do so

英 Videoconferencing Insight 誌 2007 年 1 月 10 日号発行



Packet8 Tango Video Terminal Adapter(パケットエイト タンゴターミナルアダプタ)

英テレビ会議システム専門誌 Videoconferencing Insight 誌のレポ

ートによると、米 8x8 社(エイトバイエイト)が、1月に北米ラスベガスで開催された CES にて、コンシューマー向けのテレビ電話「Packet8 Tango Video Terminal Adapter」を発表した。

8x8 社は、コンシューマー向けの IP 電話、IP テレビ電話サービス「Packet8」を提供している。

今回発表された Packet8 Tango は、前世代モデルの「Packet8 DV326」と「Packet8 Softalk」の後継に位置づけられる。従来の Packet8 DV326 と Packet8 Softalk とともにテレ

ビ電話が行える。

SIP ベースの IP テレビ電話で、映像符号化には、H.264を採用。映像フォーマットは、CIF と QVGA をサポート。

ディスプレイは、5インチの TFT-LCD タイプ、180 度回転する CCD カメラ(25 万画素)を搭載。背面には、一般電話機の接続端子がある。

操作はアイコンベースのメニューを提供、3者の同時テレビ電話(=多地点テレビ電話)、内蔵のルーター、USB 機能、イーサネットポート(2口)、RJ11(電話線に使用されているコネクタ)、電話帳機能、通話記録(300 通話まで)、コーラーID(日本の NTT が提供しているナンバーディスプレイに類似したもの)などを搭載している。

【編集長橋本のコメント】

8x8 社は、90 年代、テレビ電話用などの DSP チップ(パソコンの CPU に相当するもの)開発で有名で、またテレビ電話端末などで Cphone 社(シーフォン)と競争していた大手メーカー。99 年頃の北米のテレビ会議システム専門の展示会などで結構大きなブースを構え、テレビ電話など多数展示していた。



BCR 社主催 MultimediaCom 99 (1999 年 3 月)

8x8 社のブースでは、アナログテレビ電話と H323 テレビ電話用のディベロッパーキットを展示。アナログテレビ電話は、8x8 社本社(サンタクララ)とデモ接続。フレーム数は少ないが映像クオリティは非常によい印象だった。この時に受けた説明メモを見ると、8x8 社は DSP 開発を主軸としており、テレビ電話の製造はあくまで二次的な事業だとの説明があった。

MultimediaCom 99 は、米 BCR 社が主催していた会議システム専門の展示会&カンファレンス。編集長は 98 年の MultimediaCom 98 と 99 の 2 回参加したが、このころは、テレビ会議が ISDN ベースから IP へ向けて本格的に動き出した頃だったと記憶している。

【海外 news】英 Videoconferencing Insight 誌 - 2006 年度 VC Insight ベストテレビ会議システム端末トップ 10、HD 対応のテレビ会議システムとテレプレゼンスで占める

The 10 Best New Videoconferencing Systems of the year 2006 include four TelePresence Solutions, six High Definition Videoconferencing Systems, but no new Standard Definition VC Endpoints (翻訳記事)
執筆 Richard Line 編集長(2007 年 1 月 17 日号)

2006 年度を振り返ってみると、このテレビ会議システム業界の新しい動きとして 2 つの大きな HD(ハイデフィニション)に関する製品のリリースが行われた。ひとつは、アエスラ、ポリコム、ソニー、タンバークからの HD 対応のテレビ会議システム。そしてもうひとつは、テレプレゼンス・ソリューションの先駆的な米企業 Teliris 社をはじめとした、HP 社/TANDBERG 社、ポリコム社/Destiny Conferencing に対して、シスコもテレプレゼンス・ソリューションを発表してきた。これらのシステムソリューションはすでに販売されており、参入企業が増えてきているテレプレゼンス・ソリューションの認知は市場に少しずつ浸透してきている。

昨年のお話になるが、LCD やプラズマスクリーンが、VCInsight が選定した 2005 年度のベストテレビ会議システムにマッチしたデザインやスリムな見た目を持つ製品として洗練されてきたとこの誌で伝えてきた。そのベストテレビ会議システムには、HD システムとしては LifeSize Room のみ選ばれていた。その他は、従来の SD タイプ(CIF や 4CIF など HD に対応していない従来のテレビ会議システム)のテレビ会議システムだった。

VCInsight が選定した 2006 年のベストテレビ会議システムは、アエスラ社、ポリコム社、ソニー社、タンバーク社から発表、あるいは発売になった HD 対応のテレビ会議シ

テム。これらのメーカー以外にも、無論忘れてはならないHDテレビ会議システムを初めて市場に発売した LifeSize は、HD“ブーム”の火付け役でもあった。そして、2006年の終わりに近い頃、HDに対応したテレプレゼンス・ソリューションのひとつの大きな会議室にオフィス家具やテレビ会議システムを組み合わせて構築するシステムも市場に出てきた。これらの市場での動きは、テレビ会議システム業界全体を新たな段階へと発展させるきっかけになるのは間違いない。

予算的に購入が出来るなら、このHDテレビ会議システムを選ばない人はほとんどいないだろう。それは多分間違いないと思う。また、これからHDが本格的に各社の製品ラインナップに揃ってくると、数年もすれば、ユーザーは今のSDタイプのシステムを選ばなくなるのではないだろうか。HDがなぜ良いのか、たとえば、LifeSize社のホームページを開くと詳細な説明と情報が出ている。

HDテレビ会議システムの普及を考えた時、鍵になるのは、そのシステムの価格もそうだが、それに付随するHDTV対応のLCDやプラズマディスプレイの価格にもよってくるだろう。それらの価格トレンドをつぶさにみていると価格はもうすぐ手頃な価格帯に落ち着いてくると見る。大型のスクリーンサイズのものになると、HDに対応したビデオプロジェクタが2006年には普及してきた。ユーザーが機器選定の際には、スクリーンのサイズと可搬性などが考慮するキーポイントになるのではないか。

HDに対して、SDタイプのテレビ会議システムを見てみると、新たなイノベーションといえる新しい機能や性能は、すでに2004年や2005年に出尽くしている感がある。そのためか、2006年は、主要なメーカーがHDへの移行を強めてきた年といえるのではないか。そのため、今回の2006年度ベストテレビ会議システムトップ10には、SDタイプのテレビ会議システムは含まれていない。

VC Insight誌が、各社のテレビ会議システムを選定するにあたって考慮している点は、それぞれのテレビ会議システム製品は、それぞれの利用用途にマッチするように設計(たとえば、ルーム、セットトップ、デスクトップなど)されているため、

ひとつの製品で全ての利用用途に完璧にフィットはしないと考えている。そのため、そういったことを反映して、いくつかカテゴリー分けをしている。またSDのテレビ会議システムは、それぞれ相互接続通信が行えるが、HDテレビ会議システムやテレプレゼンスにおいては、ユーザーの選定傾向として、1メーカーでシステム構築という選定嗜好が顕著になってくるのではないかと予想する。

2006年度テレビ会議システムベスト10には、LifeSizeに加え、アエスラ社、ポリコム社、ソニー社、タンバーク社の4社、そしてテレプレゼンス・システムでも4社が入っている。ユーザーにとって、HDテレビ会議システムやテレプレゼンスは選択肢の中に十分入ってきている時代になってきた。それでは、VC Insight誌が発表するベスト10を紹介しよう。

Cisco TelePresence System (シスコ・テレプレゼンス・システム)

HP Halo Collaboration Studio TelePresence System (H P 八口・コラボレーション・スタジオ・テレプレゼンス・システム)

Polycom RPX HD TelePresence Solution(ポリコム・HD・テレプレゼンス・ソリューション)。

Teliris VirtuaLive(テリリス・バーチャアライブ)

(編集長橋本:日本での販売は未確認)

Aethra Vega X7(アエスラ・ベガ・エックス7)

(編集長橋本:日本での販売は未確認)

LifeSize Room HD videoconferencing system(ライフサイズ・ルーム・HD・テレビ会議システム)

Polycom HDX 9004 (ポリコム HDX 9004)

Sony PCS-HG90(ソニー PCS-HG90)

TANDBERG Edge 95 MXP、85MXP、75MXP

(タンバーク エッジ 95 MXP、85MXP、75MXP)

TANDBERG Centric 1700 MXP

(タンバーク セントリック 1700 MXP)



Awards for Year 2006

テレビ会議システム業界は今非常に早いペースで変化しようとしている。今スナップショット的に紹介したテレプレゼンスやHD対応の各社のテレビ会議システム。1年前には、HDのテレビ会議システムやテレプレゼンス・システムがこれほど注目

されつつあるとは予想が付かなかった。2006年はHDやテレプレゼンス・システムへの動きが始動した年になったが、2007年は一体どのような年になるのであろうか。Videoconferencing Insight誌を購読(無料)していただければトレンドは逐次レポートしていく。VC Insightの詳細は、<http://www.vcinsight.com>

ショートニュース項目

【海外 news】英のMCUなどインフラ製品の専門メーカーCodian社が、オーストラリアのFace To Face Software社を買収合併したと発表。Face To Face Software社は、2004年に設立された企業。テレビ会議システム用のマネージメントソフトウェアを開発している。Face To Face Software社を合併することで、Codian社の多地点接続装置(MCU 4200、MCU 4500、MSE 8000)やレコーディングとストリーミングのCodian IP VCR 2200を複数台同時にシングルインターフェイスで簡単に運用管理するソフトウェア「CMP(Codian Management Platform)」を開発。

【海外 news】英のMCUなどインフラ製品の専門メーカーCodian社が販売するHD対応の多地点接続装置「MCU 4500」は、INTERNET TELEPHONY マガジン(<http://www.itmag.com>)で、「2006年度プロダクト・オブ・ザ・イヤー賞」を受賞した。同賞は、その年でもっとも革新的なVoIP系の製品に贈られるもの。MCU 4500は、ポリコム社、タンバーク社、ソニー社、ライフサイズ社各社のHDビデオ

会議端末を同時に多地点で接続することが可能。(MCU 4500 関連記事: CNAレポートジャパン Vol.9 No.1 2007年1月10日)

【海外 news】イスラエルのラドビジョン社によると、「Click To Meet (クリック・トゥー・ミー）」が、ラテンアメリカにおける最先端技術専門誌のひとつである、IT USERS Managine誌の2006年トップITアワード賞を受賞したと発表。トップITアワード賞は、ラテンアメリカのVoIP、IPテレフォニーマーケットの大きな発展に貢献した製品を選定している。Click To Meetは、音声やビデオ会議、データ共有機能を使った1対1や多地点の会議セッションなどが行えるコラボレーション機能を提供しており、Microsoft OfficeやIBM Lotus Sametime 7.5との統合が可能。

【海外 news】イスラエルのラドビジョン社によると、多地点接続装置などの機能を提供するSCOPIAプラットフォームのバージョン5.1を発表した。バージョン5.1では、HDに対応したビデオ・音声が可能となり、主要なHDビデオ会議端末との互換性を提供する。また、それに加え、MCUの能力を最大限に引き出すためのFlat Capacity PLUS(フラットキャパシティプラス)を提供する。Flat Capacity PLUSは、たとえば、MCUの構成と性能に応じて、余った帯域幅を利用可能なポート数を増加するという形でMCU自体の能力を最大限に活用するための機能。

セミナー・展示会情報

テレビ会議セミナー (at 名古屋会場)

日時:第1回:2月15日(木) 10:00-12:00 (09:30開場)

第2回:2月15日(木) 14:00-16:00 (13:30開場)

会場:株式会社東海会館(愛知県名古屋市)

主催:エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社

詳細・申込:

http://www.vcd.nttbiz.com/information/seminar_2/

編集後記

日々CNAレポートジャパンへのご協力、ご支援ありがとうございます。今号もお読みいただきましてありがとうございました。HDテレビ会議は新たな需要を起しているとも言われています。ホットになりつつあるようですね。次号は、2月28日発行予定です。編集長 橋本啓介